

Boys, be ambitious!

あらたな一步を踏み出そう！

2023 秋号 vol.35

甲府一高通信

REIWA

R5

No.2

# FIRST STEP

Kofu First High School

甲府一高

強行遠足特集

第九十五回 強行遠足体験文より

それがこんなにも特別だ。

歩く。ただ歩く。黙々と。  
肅々と。

清里給水所(男子47.9km)(女子16.9km)  
(標高1365m)

大泉検印所(男子39.1km)(女子8.2km)  
(標高1144m)

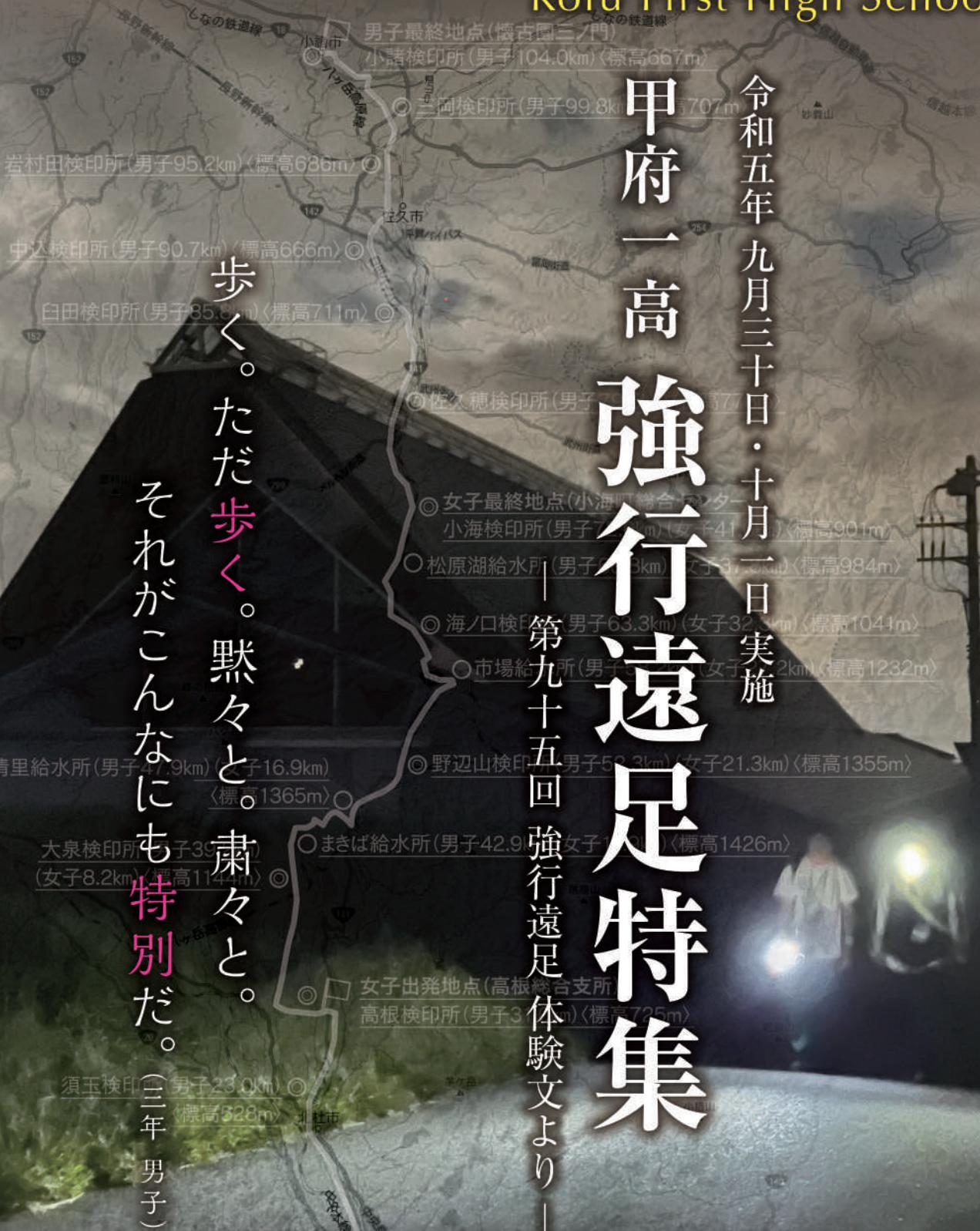
須玉検印所(男子23.0km)(女子13.0km)  
(標高328m)

(三年  
男子)

韭崎検印所(男子11.5km)(標高342m)

62

男子出発地点(学校)  
(標高288m)



# 強行遠足発走

山梨県立甲府第一高等学校

大泉前のものすごい坂でもうやめよう  
と思い、友達と検印所で休んだ。そのとき友達が、家族に申し訳ないと話して、それが私の心にも刺さった。こんなところで諦めていて、絶対完走出来ねと  
言つてくれた子にはどう説明しよう。その瞬間、次の野辺山まで頑張ろう。そう決意した。自分が思っていた限界は、限界ではなく、ただ自分が諦めるための口実だった。(二年男子)



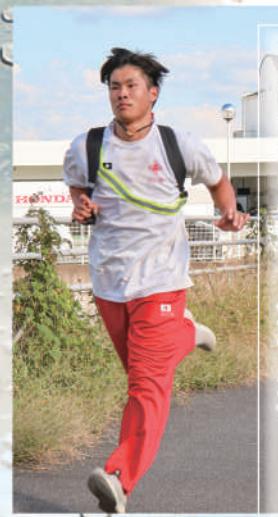
もう理由をつけて逃げるのはやめようと思った。雨だから、一時間遅れてスタートだから、終了时刻は変わらないから: 条件はみんな同じ。これができない理由にはならない。これは試練だ。乗り越えた先には何があるのか。とてもワクワクした。(三年女子)



絶対にゴールすると本気になればなるほど辛い。まさに茨の道。だが茨の道にも道はあり、その道を着実に歩めば目標を達成できる。(一年男子)



疲れ切った身体でたどり着いたまきば給水所では、吹奏楽の演奏から大きな元気をもらつた。音楽や人のすばらしさをとても大きく感じた。これから先、私が進んだことのない道を歩くため背中を押してくれた。(三年女子)



一人で歩いている時間が多々あつた。そのときはすごくつらかった。普段はあまり人に話しかける性格ではないが、「一緒に歩いてもいいですか」と誘つた。同 学年だけでなく、先輩や後輩とも歩いた。一人のときの百倍くらい力が出た。(二年男子)



「大丈夫?」「あと少しだから頑張って」後ろからきた三年生の先輩方の声でした。先輩方はミカン味の飴や芍薬甘草湯まで渡してくれました。その温かいことばとやさしさにとても心が晴れ、痛みも和らぎだ気がしました。(二年女子)



私は七つのぎりを持つて出発しました。帰りのバスで、母の作った最後のおにぎりを食べました。最後まで元気をもらえるような優しいおにぎりです。食べたあとはバスの中で眠りました。絶対に来年もゴールしたいと強く願いながら。(二年女子)



「人生は短距離走ではなく、永遠に続くマラソンである」という名言がある。短距離走では転倒することは致命的だが、長い距離で転んでも追いつくことはできる。強行遠足でも同じだ。(二年女子)



つらくて長い道のりだった。情けない思いも悔しい思いもした。ただ、もう一度あの夜を過ごしてみたいと思う。もう一度、弱さと戦つて、今度こそ勝ちたいと思う。もう二度とやりたくはないけれど、もう一度だけ歩きたい。(三年男子)



女子のゴール、野辺山に変更。本来なら距離が短くなつて嬉しいと思うことを、私は悔しいと思うようになった。自分の限界を突破すること、耐えること、向き合うこと、そして強い自分になること。これらを体験しなくても生きていいくことはできるが、体験したからこそ、新しい道に進んだり、他の人がしないことをやってみる自信がつくと思う。その姿が一番かっこいい姿だ。(三年女子)

